

所員活動一覽(二〇一一年一〇月一日～二〇一二年三月三十一日)

荒木 浩

●論文

『A New Approach to the Lost Book *Uji Dainagon Momogatari* as a Crucial Prehistory of the Birth of the *Konjaku Tales*』、『国際会議 日本伝ストナム 文学—東アジアの視点から』ホーチミン市社会科学大学、国際交流基金 二〇一一年十二月

『The Time-Space Continuum of Commentaries: From the Perspective of Medieval Literature and the Study of Narrative Tales』、TRANSACCIONS OF THE INTERNATIONAL CONFERENCE OF EASTERN STUDIES No. LVII 2011 (『国際東方學者會議紀要』第五六冊) 財団法人東方學會 二〇一二年一月

『『方丈記』の文体と思想—その結構をめぐる—』、『文学』《特集》『方丈記八〇〇年』隔月刊 第一三卷・第二号、二〇一二年三・四月号 二〇一二年三月

『釈教歌と石鹸—宮澤賢治の〈有明〉再読—』プラットフォーム・アブラハム・ジョージ、小松和彦編『宮澤賢治の深層—宗教からの照射—』法蔵館 二〇一二年三月

『月はどんな顔をしている—譬喩と擬人化のローカリズム』三谷研爾編『Between "National and Regional" Reorientation of Studies on Japanese and Central European Cultures』大阪大学文学研究科 二〇一二年三月

●その他の執筆活動

『方丈記を味わう』(連載二五回)『京都新聞』日曜版ジュニアタイムズ 二〇一一年一〇月二日～二〇一二年三月二十五日

伊東貴之

●著書

溝口雄三著『中国思想のエッセンスI—異と同のあいだ』、『中国思想のエッセンスII—東往西来』(編集) 岩波書店 二〇一一年十一月二二日

## ●論文

〔解説〕 伝統中国の復権、そして中国的近代を尋ねて」溝口雄三著『中国思想のエッセンスⅡ―東往西来』岩波書店 二〇一一年一月二二日  
 「日本における東アジア海域交流史研究の現状と動向」『第一八回海外シンポジウム「江南文化と日本」(復旦大学) 報告書』国際日本文化研究センター 二〇一二年三月

## ●その他の執筆活動

〔編者注〕 溝口雄三著『中国思想のエッセンスⅠ―異と同のあいだ』岩波書店 二〇一一年一月二二日  
 〔編者注、年譜、著作目録〕 溝口雄三著『中国思想のエッセンスⅡ―東往西来』岩波書店 二〇一一年一月二二日  
 「辛亥革命一〇〇年の節目の年―中国の『現代思想』」翻訳・紹介に新たな局面 海外文学・文化回顧・中国『図書新聞』第三〇四三号 二〇一一年二月二四日  
 「書評 『逆説』の『東アジア』史―読三嘆、チャート式・よく分かる…與那覇潤『中国化する日本―日中「文明の衝突」一千年史』」『週刊読書人』二〇一二年二月一七日号

## 磯前順一

## ●論文

「Japanese Modernity as Postcolonial Experience,」*Asia & Europe Bulletin* No. 1, University of Zurich, February 2012. (English)  
 “Rukushima hat den Kaiserkult noch verstärt,“ *Tages Anzeiger*, 25 Januar. (German)

## ●その他の執筆活動

「ムハンマド・アサドの回想より―震災後の社会の政治と宗教」(タラル・アサドと共著) 『みずび』二〇一一年一〇月号 (No. 598)  
 「フォーラム京 タイガースにみる『和解』の物語」『京都新聞』二〇一一年一月二五日  
 「世界の宗教研究はいまドイツ・ポッフムより」(フォルクハルト・クレヒと共著) 『CISMOR VOICE』Vol. 14 同志社大学一神教学際研究センター 二〇一一年一月

「時感断想 日々の祈り―自我を包み込む大我」 「時感断想 表現への闘い―語り得ない出来事を前に」 「宗教研究の責任―精神の暗部を見つめる」 「苦を分かち合う―かけがえないあなたへ」 『中外日報』 二〇一二年二月二日〜三月一三日

「論壇 ベルリン・ユダヤ博物館より」 『中外日報』 二〇一二年一月二四日

「ときめく力を今一度・・・沢田研二・武道館コンサートより」 『中外日報』 二〇一二年二月七日

## 稲賀繁美

### ● 論文

「일본 미술 표현으로 보는 뱀」 『문화로 읽는 심이지신 이야기 뱀』 서울・도서출판 열림원, 2011년 10월 (韓国語訳) 「日本の美術表現にみる蛇」 『文化で読む十二支神物語 蛇』 ソウル・図書出版 ヨルリムウォン 二〇一一年一〇月

「일본 미술에서의 말」 『문화로 읽는 심이지신 이야기 말』 서울・도서출판 열림원, 2011년 11월 (韓国語訳) 「日本の美術表現にみる馬」 『文化で読む十二支神物語 馬』 ソウル・図書出版 ヨルリムウォン 二〇一一年一月

「華厳経と現代美術・相互照射の試み」 黄自進編 『日本の伝統と現代』 中央研究院人社中心亜太区域研究専題中心 二〇一一年二月

「ハリコ・アダッチオの夢世界…あるアマチュア日曜陶藝家の生活と意見」 『あいだ』 一八九号 (連載第八四回) 二〇一二年一月

「日本美術の中の『龍』…旧暦『辰』年にちなみ」 『あいだ』 一九〇号 (連載第八五回) 二〇一二年二月

«La Pensée plastique et le statut social des arts et métiers au Japon face à la modernité (1900-1927)» 「二十世紀第一・四半世紀日本における工藝の社会的地位と工藝的思考」 京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』 Vol. 4 (2011) 京都国立近代美術館 二〇一二年二月

「宮澤賢治とファン・ゴッホ」 『比較日本学教育研究センター研究年報』 第八号 お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター 二〇一二年三月

「星と修羅と自己犠牲―宮澤賢治の心象へのいくつかの補助線」 プラット・アブラハム・ジョージ・小松和彦編 『宮澤賢治の深層―宗教からの

照射―』 法蔵館 二〇一二年三月

● その他の執筆活動



- 「書評 錦仁著『なぜ和歌(うた)を詠むのか 菅江真澄の旅と地誌』(再録)『リポート等間』五二号 二〇一一年一月二〇日
- “The Roots of Ise Shrine and the Folk Architecture of Sulawesi,” John Breen and Yamada Shoji eds. *Understanding Contemporary Japan, International Symposium in Indonesia 2010*, International Research Center for Japanese Studies, Nov. 2011.
- 「現代の建築家・四 渡辺仁―様式の黄昏をのりこえて―」『GA JAPAN』113 二〇一一年一月
- 「てい談 しろうと」(依越山、木村英輝と) 木村英輝著『LIVE―飛ぶ、笑う、踊る、唄う すべては、成りゆき』青幻舎 二〇一一年一月
- 「男の絆とミス日本」『文藝春秋』二〇一一年二月臨時増刊号
- 「二〇〇〇年を見渡した東アジアの貿易史」『中央公論』二〇一一年二月号
- 「スードとパンツと家父長制 上野千鶴子のおっさん観をめぐって」『現代思想』二〇一一年二月臨時増刊号
- 「私のモチキ」『文藝春秋』二〇一一年二月号
- 「建築は誰のものか」『建築と日常』No.2 二〇一一年二月
- 「日本に古代はあったのか」『経済人』二〇一一年二月号
- 「わたしの二〇一二年」『朝日21 関西スクエア』会報一四〇号 二〇一一年二月
- 「書評 中村武生著『池田屋事件の研究』」『日本経済新聞社』(夕刊) 二〇一一年二月七日
- 「座談 街つなぐ歴史と個性」(園城三花、岩中祥史、藤本順子と)『中国新聞』二〇一一年二月八日
- 「美貌はキツチュをのりこえて」府中市美術館『石子順造的世界』 二〇一一年二月一〇日
- 「スカートめぐり」の文化史―日本の男はいつからめくっていたのか』『週刊現代』二〇一一年二月一七日号
- 「楽浪の志賀津の児らが…」『NHK 日めぐり万葉集』Vol.22 二〇一一年二月一九日
- 「二〇一一年 私の三冊」『日本経済新聞社』 二〇一一年二月二五日
- 「書評 ダニエル・ドナヒュー著『貴婦人ゴディヴァ』」『日本経済新聞社』(夕刊) 二〇一一年二月二八日
- 「年賀状に書き添えたい一言 さくさくふるまうのも、たいへんです」『文藝春秋』二〇一二年新年特別号
- 「歴史はどこまで学統・学閥に左右されるのか」『中央公論』二〇一二年一月号

- 『名古屋美人』 氣立てよし』『中日新聞』 二〇一二年一月一日
- 『書評 鹿島茂著『蕩尽王、パリをゆく』』『日本経済新聞社』（夕刊） 二〇一二年一月一八日
- 『書評 井上理津子著『さいごの色街 飛田』』『週刊ポスト』 二〇一二年一月二〇日号
- 『勝鹿の真間の手児名が：』『NHK 日めぐり万葉集』 Vol.23 二〇一二年一月二〇日
- 『書評 『今和次郎採集講義』（青幻舎）』『週刊読書人』 二〇一二年一月二〇日号
- 『現代の建築家・五 松室重光—コロシアリズムと建築家—』『GA JAPAN』 114 二〇一二年一月
- 『書評 古屋晋一著『ピアニストの脳を科学する』』『日本経済新聞社』（夕刊） 二〇一二年二月八日
- 『書評 仁藤敦史著『都はなぜ移るのか』』『日本経済新聞社』（夕刊） 二〇一二年二月二九日
- 『歩道橋から見えること』『暮らしの手帖』 二〇一二年二月—三月号
- 『書評 中川右介著『第九』』『週刊ポスト』 二〇一二年三月二日号
- 『書評 サルヴァトーレ・セッティス著『古典的なるものゝ未来』』『日本経済新聞社』（夕刊） 二〇一二年三月二一日
- 『『干蘭』か『高床』か—日中建築比較論のこころみ』 山田擬治・郭南燕編『江南文化と日本—資料・人的交流の再発掘』 国際日本文化研究センター 二〇一二年三月
- 『現代の建築家・六 妻木頼黄—オリエンタリストたちの夢の跡—』『GA JAPAN』 115 二〇一二年三月

### 牛村 圭

#### ●その他の執筆活動

- 『うさぎのつきみ小考』『日文研』 四八号 二〇一二年三月
- 『言葉のきれいは七難隠す』『京都新聞』（夕刊） 二〇一一年十一月二四日
- 『異文化としての京都ドライバー』『京都新聞』（夕刊） 二〇一二年二月一八日
- 『女には『かわいい』、男には『オトナの』を』『京都新聞』（夕刊） 二〇一二年三月九日

宇野隆夫

● 論文

「一九八〇年代前後の中世土器研究」『第三〇回中世土器研究会 新世紀の土器・陶磁器研究―二〇〇〇年代の成果と今後の展望―』日本中世土器研究会 二〇一一年一月

「GISを用いた古代北陸道の復元研究」『加茂遺跡』詳細分布調査(第一～二調査区)発掘調査報告書』二〇一二年三月

● その他の執筆活動

「考古学」『Mindas』(電子版) 集英社 二〇一二年三月

「考古学」『ブリタニカ国際年鑑』二〇一二年三月

笠谷和比古

● 著書

『武家政治の源流と展開―近世武家社会研究論考―』清文堂出版 二〇一一年一月

郭 南燕

● 著書

『江南文化と日本―資料・人的交流の再発掘―』(山田奨治と共編) 国際日本文化研究センター 二〇一二年三月

● その他の執筆活動

「世界自然遺産に登録された小笠原諸島」『NICHIBUNKEN NEWSLETTER』No. 84 二〇一二年三月

「標準語の普及によって消えゆく上海語」『人と自然』第三号

フレデリック・クレインズ

●論文

“Un Japonais naturalisé? Identité et rôle historique de William Adams.” *Devenir l'autre. Expérience et récit du changement de culture entre le Japon et l'Occident*. Arles, Editions Philippe Picquier, 2012.

倉本一宏

●著書

『藤原行成「権記」全現代語訳』（上・中・下）（単著）講談社 二〇一二年二月、二〇一二年一月、二〇一二年二月

『歴史文化セレクション 古代を考える 蘇我氏と古代国家』（共著）吉川弘文館 二〇一二年二月

●論文

「史料紹介 『御堂関白記』 自筆本の裏に写された『後深心院関白記』」『日本研究』第四四集 国際日本文化研究センター 二〇一一年一〇月

「藤原行成『権記』に見える配偶者表記について」『日本歴史』二〇一一年二月号（七六三） 吉川弘文館

●その他の執筆活動

「『日記の総合的研究“*The Synthetic Researches of Japanese Diaries*”に向けて」『日本研究』第四四集 国際日本文化研究センター 二〇一一年一〇月

「二〇〇五年、伊勢勅使の旅」『まほら』六九号 二〇一一年一〇月

「御堂関白記」「小右記」「後二条師通記」「栄花物語」『特別展示「近衛家陽明文庫 王朝和歌文化千年の伝承」図録解題』国文学研究資料館 二〇一一年一〇月

「御堂関白記」「小右記」「後二条師通記」「栄花物語」国文学研究資料館編『陽明文庫 王朝和歌集影』勉誠出版 二〇一一年二月

「平安時代理解のあたらしい地平へ―古記録の現代語訳は何故に必要か―」『本』第三七卷第一号 二〇一二年一月



小松和彦

●著書

鈴木晃仁編『対話』異形 生命の教養学Ⅶ（上野直人と共著）慶應義塾大学出版会 二〇一一年一〇月

『宮澤賢治の深層―宗教からの照射―』（プラット・アブラハム・ジョーシと共編）法蔵館 二〇一二年三月

●論文

「入らずの山と鎮守の森―もうひとつの環境思想としての民俗」秋道智彌編著『日本の環境思想の基層―人文知からの問い』岩波書店

二〇一二年三月

「賢治童話における『童子』をめぐる―『オツベルと象』の〈赤衣の童子〉はどこから来たのか？」小松和彦・プラット・アブラハム・ジョーシ編『宮澤賢治の深層―宗教からの照射―』法蔵館 二〇一二年三月

●その他の執筆活動

「妖怪と日本人の心③ 山の妖怪―天狗と山姥」『ふぃーるでいんぐ』No.119 NECフィールディング 二〇一一年一〇月

「日本の妖怪文化は、世界に誇れる文化である」『妖怪見聞』茨城県立歴史館 二〇一一年一〇月

「談話室 妖怪や物の怪はどこへ行ったか」『銀行倶楽部』528 銀行協会 二〇一一年一月

「天狗と火防」『ひととき』二〇一一年二月号 ウェッジ

「特別随筆『わたしと異界の出会い』⑨」『怪』vol.0034 角川書店 二〇一一年一月

「いやはや語辞典 ガラバゴス化」『讀賣新聞』（夕刊）二〇一一年二月二日

「時空を超えて生き続ける伝説」『日生劇場十二月歌舞伎公演』松竹株式会社 二〇一一年二月

「妖怪と日本人の心④ 狐と狸―動物の妖怪」『ふぃーるでいんぐ』No.120 NECフィールディング 二〇一一年二月

「歴博対談五一 広がる怪異・妖怪研究」(常光徹氏と対談)『歴博』第一七〇号 国立歴史民俗博物館 二〇一二年一月

佐野真由子

● 論文

「ロンドン万博へ続く道——一八六一（文久元）年のオールコックの旅と日本の『開国』」『明治聖徳記念学会紀要』復刊第四八号 二〇一二年一月

「阿礼国先后推动中日参展两届伦敦博览会的启示」陶徳民他編『世博会与东亚的参与』上海人民出版社 二〇一二年三月

● その他の執筆活動

「エストニアの友人」『日文研』四八号 二〇一二年三月

白幡洋三郎

● 著書

『都市歴史博覧——都市文化のなりたち・しくみ・たのしみ』（錦仁、原田信男と共編）笠間書院 二〇一二年二月

● 論文

「都市はぜいたく」『都市歴史博覧』笠間書院、所収 二〇一二年二月

● その他の執筆活動

「国立公園の復興」『まほら』六九号 二〇一二年一〇月

「キンモクセイ、アメリカ、豊中」『豊中リレー・エッセー ゆめ・まち・ひと』豊中市、所収 二〇一二年一〇月一五日

「日本人の忘れもの Vol.24 集う楽しみ」『京都新聞』二〇一二年一月一日

「解題・雑誌『国立公園』の歴史的意義と日本の国立公園の価値」「解題・総目次・索引」『国立公園』財団法人国立公園協会 二〇一二年二月二二日

「書評『紅茶スパイ』サラ・ローズ著、築地誠子訳」『神戸新聞』他（共同通信配信）二〇一二年二月五日

「桜と日本人」『季刊SORA』二〇一二年春号 二〇一二年三月

鈴木貞美

●論文

『日記』および『日記文学』概念をめぐる覚え書き』『日本研究』第四四集 国際日本文化研究センター 二〇一一年一〇月

“Rewriting the Literary History of Japanese Modernism,” translated by Roy Starrs (English version of 「日本モダニズム文藝史のために―新たな構想」), *Rethinking Japanese Modernism* edited by Roy Starrs, Global Oriental, Leiden, Boston, 2012.

『明治期『北欧文学』概念と日本近現代文藝史の再編：トランス・カルチュラル研究の進め方』『日文研・ヨーテポリ大学国際シンポジウム報告書CD版

『近代の超克』と『大東亜共栄圏』―京都学派座談会『世界史的立場と日本』および丸山貞男『日本の思想』批判―黄自進編『台湾中央研究院CAPAS 国際シンポジウム報告書 日本の伝統と現代』中央研究院人文社中心亜太区域研究専題中心 二〇一一年一二月

『宮澤賢治世界の宗教性をめぐって』小松和彦・プラット・アブラハム・ジョージ編『宮澤賢治の深層―宗教からの照射―』法蔵館 二〇一二年三月

『近代の超克』論―その戦中、戦後―鈴木貞美・劉建輝編『国際シンポジウム第二六集 東アジアにおける近代諸概念の成立』国際日本文化研究センター 二〇一二年三月

“A Revolution of the East Asian Modern System of Knowledge,” translated by Alan Thwaites, *Cultural Interaction Studies in East Asia: New Method and Perspective*, ed. Tao Demin & Fujita Takao, Institute for Cultural Interaction Studies, Kansai University, March 2012.

●その他の執筆活動

『今年の執筆予定』『出版ニュース』二〇一二年一月上中旬号

『推薦文(帯)』三浦茂久著『古代枕詞の究明』作品社 二〇一二年一月

『吉田健一生涯百年』産経新聞(夕刊) 二〇一二年三月一五日

## 末木文美士

## ●著書

- 『日本仏教の可能性』新潮文庫 二〇一一年一月  
 『シリーズ大乘仏教(三) 大乘仏教の実践』(共編) 春秋社 二〇一一年一月  
 『シリーズ大乘仏教(二) 大乘仏教の誕生』(共編) 春秋社 二〇一一年一月  
 『哲学の現場』トランスビュー 二〇一二年一月  
 『シリーズ大乘仏教(九) 認識論と論理学』(共編) 春秋社 二〇一二年一月

## ●論文

- 『大乘仏教の実践』『シリーズ大乘仏教(三) 大乘仏教の実践』春秋社 二〇一一年一月  
 『장려불교: 근대적 이성 비판』『유교 도교 불교의 감성 이론』경인문화사 二〇一一年一月  
 『日本仏教は非論理的か?』『日本の哲学』一二 二〇一一年一月  
 『聖財集をめぐる』『無住―研究と資料』長母寺 二〇一一年二月  
 『禪の言語と論理』『上月圓覺大祖師生誕百周年記念「佛學論叢」』圓學佛教思想研究院 二〇一一年二月  
 『宗教で読み解く日本の歴史』『日本の個性―歴史』から「現在」を読み解くための九章』新人物往来社 二〇一二年二月  
 『高山寺本『受法用心集』の翻刻訂正』『平成二十三年度高山寺典籍文書調査団研究報告論集』二〇一二年三月  
 『近代日本の自然観―近代日本の自然観と伝統的自然観』秋道智彌編著『日本の環境思想の基層―人文知からの問い』岩波書店 二〇一二年三月  
 ●その他の執筆活動  
 『現代のことば』『京都新聞』(夕刊) 二〇一一年一月一日、二月八日、二月八日、二〇一二年二月一〇日  
 『仏典に学ぶ』『朝日新聞』(夕刊) 二〇一一年一月三日、二月八日、二〇一二年一月三日、二月二七日、三月二六日  
 『日本仏教の特集を編んだ頃』『東洋学術研究』五〇―二 二〇一一年一月  
 『ストゥーバから卒塔婆まで―塔の歴史とその意味』『やまとみち』一〇・一一九号 二〇一一年一月

- 「弔辞 花井一典君を送る」『哲学』四七 二〇一一年二月  
 「書評 今年の三冊」『仏教タイムス』二〇一一年二月八日、一五日  
 「インタビュー 広がる豊かな思想の海」『朝日新聞』（夕刊）二〇一一年二月二六日  
 「仏教からみた前近代と近代」『中外日報』二〇一二年一月七日号  
 「インタビュー 日本の哲学構築へ『哲学の現場』を上梓」『仏教タイムス』二〇一二年二月二日  
 「親鸞に何を求めるのか」『武蔵野大学仏教文化研究所紀要』二八 二〇一二年三月  
 「震災からアジアの仏教を考える」『NARASIA Q』創刊準備号 二〇一二年三月  
 「日本人の災害観」『研究東洋』二二〇一二年三月

瀧井一博

●その他の執筆活動

- Japans Hinwendung zum deutschen staatsrechtlichen Modell." in: Curt-Engelhorn-Stiftung für die Reiss-Engelhorn Museen: Alfred Wiczorek, Susanne Wichert (Hrsg.), *Ferne Gefährte, 150 Jahre deutsch-japanische Beziehungen*, Verlag Schnell und Steiner (Regensburg), 2011.
- 「伊藤博文と山県有朋」『歴史群像シリーズ 大日本帝国の興亡② 「一等国」への道』学研パブリッシング 二〇一一年年二月  
 「インタビュー 私のリーダー論四 理念語り文化高める」『毎日新聞』二〇一二年一月一日  
 「天皇機関説をわかりやすく教えて下さい」『日本歴史』二〇一二年一月号（七六四）吉川弘文館  
 「人物史を自省する―家近良樹『西郷隆盛と幕末維新の政局―体調不良問題から見た薩長同盟・征韓論政変―」（ミネルヴァ書房、二〇一一年）  
 『寄せし』『こころ』Vol.5 平凡社 二〇一二年二月

## 戸部良一

## ●論文

「第二次世界大戦下の在トルコ日本大使館」A・メテ・トゥンシヨク編『日本人研究者の目から見たトルコ シンポジウム』Canakkale Onsekiz Mart Üniversitesi Yayinlari

## ●その他の執筆活動

「文献紹介 John J. Meersheimer, *Why Leaders Lie: The Truth about Lying in International Politics*」『年報 戦略研究』第一〇号 二〇一一年一〇月

「解説 読売新聞社編『昭和史の天皇』一〜三 中公文庫 二〇一一年一〇月、二〇一二年二月

「再読『滞日十年』『ちくま』第四八八号 二〇一一年一月

「解説 DVD『NHKスペシャル 日本人はなぜ戦争へと向かったのか』NHKエンタープライズ 二〇一一年一月

「大綱という名の無方針とリーダーシップの不在」NHK取材班編『日本人はなぜ戦争へと向かったのか 戦中編』NHK出版 二〇一一年

一月

「図説・天皇の軍隊」『歴史群像シリーズ 大日本帝国の興亡② 「一等国」への道』学研パブリッシング 二〇一一年二月

「昭和陸軍・暴走のメカニズム」『中央公論』二〇一二年一月号別冊

「辻政信・優秀なれど制御能わざる人材の弊害」『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』二〇一二年一月号

「インタビュー につぼん再考①リーダー論 歴史の『失敗』学び人材育成を」『京都新聞』二〇一二年一月四日

「項目執筆「大隈重信」他八項目」歴史群像編集部編『日露戦争兵器・人物事典』学研パブリッシング 二〇一二年一月

「論評鼎談『日本外交文書 日中戦争』所収文書から見る和平工作の諸相（鹿錫俊氏、富塚一彦氏と）『外交史料館報』第二五号 二〇一二年

三月

「満洲国皇帝溥儀とは何者だったのか？」『歴史人「満洲帝国の真実」』二〇一二年四月号

「三つの『戦争』―満洲事変、支那事変、大東亜戦争」『陸戦研究』二〇一二年四月号

早川聞多

● 論文

「撰歌評 古今秀歌一首」『古今秀歌百選』文字文化協會 二〇一二年一月

● その他の執筆活動

「達人対談 春画の達人／早川聞多」『ビートたけし 春画の世界はこんなに凄い』『新潮45』二〇一二年三月号 新潮社

パトリシア・フィスター

● その他の執筆活動

“Tribute to Fukushima Keidō (1922-2011),” *Orientalism* 42: 8, Nov./Dec.2011.

ジョン・ブリン

● 著書

*Understanding Contemporary Japan, International Symposium in Indonesia 2010*, Co-edited by Yamada Shoji, International Research Center for Japanese Studies, Nov. 2011.

● 論文

「伊勢神宮の近代的空間の形成・序説」神道国際学会編『第三回専攻研究論文発表国際大会：発表論文集』神道国際学会 二〇一二年一〇月

“Mourning and violence in the Land of Peace: Reflections on Yasukuni,” John Breen and Yamada Shoji eds. *Understanding Contemporary Japan, International Symposium in Indonesia 2010*, International Research Center for Japanese Studies, Nov. 2011.

● その他の執筆活動

「新田教授へのレスポンス」『神道フォーラム』

“Afterword,” John Breen and Yamada Shoji eds. *Understanding Contemporary Japan, International Symposium in Indonesia 2010*, International Research

Center for Japanese Studies, Nov. 2011.

細川周平

● 論文

“Thunder in the Far East. The Heavy Metal Industry in 1990s Japan” (with Kei Kawano), Jeremy Wallach, Harris M. Berger, and Paul D. Greene (eds.),

*Metal Rules the Globe. Heavy Metal Music around the World*, Duke University Press, Durham & London, 2011.

「戦時下の中国趣味の流行歌」山田奨治・郭南燕編『江南文化と日本―資料・人的交流の再発掘』国際日本文化研究センター 二〇一二年三月

● その他の執筆活動

「書評 椎名亮輔『狂気の西洋音楽史』』『同志社時報』一三二号 二〇一二年一〇月

「音楽評 二階堂和美ワンマンツアー『はじめの旅』』『毎日新聞』(関西版夕刊) 二〇一一年一月三〇日

「読書アンケート」『みずす』二〇一二年一・二月号 (No. 601)

「一九六九年夏、コルトレインを聴く」『文藝別冊 KAWADE 夢ムック ション・コルトレイン』二〇一二年二月

「音楽評 テデスキ・トラックス・バンド」『毎日新聞』(関西版夕刊) 二〇一二年二月二二日

松田利彦

● 論文

「植民地警察はいかにして生みだされたか―日本の朝鮮侵略と警察」林田敏子・大日方純夫編『近代ヨーロッパの探究⑬ 警察』ミネルヴァ書

房 二〇一二年一月

● その他の執筆活動

「書評 尚友倶楽部・児玉秀雄関係文書編集委員会編『児玉秀雄関係文書』第I巻、第II巻(同成社、二〇一〇年五月、八月)』『日本歴史』

二〇一二年一〇月号(七六一) 吉川弘文館



「市外教四〇周年によせて」大阪外国人教育研究協議会編刊『大阪市外国人教育研究協議会四〇周年記念誌 つむごう未来へ響きあう子ども達を育む』二〇一一年一〇月

山田奨治

●著書

*Understanding Contemporary Japan, International Symposium in Indonesia 2010*, Co-edited by John Breen, International Research Center for Japanese Studies, Nov. 2011.

『江南文化と日本―資料・人的交流の再発掘―』（郭南燕と共編）国際日本文化研究センター 二〇一二年三月

●論文

“Ces érudits japonais qui ont apporté le zen en Allemagne,” Christine Maillard et Sakae Murakami-Giroux, *Devenir l'autre: Experience et re'cit du changement de culture entre le Japon et l'Occident*, Editions Philippe Picquier, 2011.

「ゆるぐ」と「かたぐ」のあいだ：日本の「ゆるキャラ」マスコットを考える」Yamada Shoji and John Breen eds, *Understanding Contemporary Japan, International Symposium in Indonesia 2010*, International Research Center for Japanese Studies, Nov. 2011.

「古事類苑・地部GISデータの作成」（中西和子氏、尾方隆幸氏と共著）GIS研究協議会『歴史GISの地平 景観・環境・地域構造の復原に向けて』勉誠出版 二〇一二年三月

●その他の執筆活動

「インタビュー 厳罰化に異議 市民の声を」『京都新聞』二〇一一年一〇月三日

「メディア時評 現実を直視させたカダフィ氏写真」『毎日新聞』二〇一一年一〇月二九日

「妖のイメージ・日本人の想像力二五 河童」『京都新聞』二〇一一年一二月七日

「インタビュー 技術者の本棚：著者に聞く 日本の著作権の在り方に矛盾を感じる 技術者は萎縮してはならない」『日経エレクトロニクス』二〇一二年一月九日号

「コメント 著作権ルール TPPで議論再燃」『日本経済新聞』二〇一二年二月四日

『模倣』と『創造』の世界文化史と『再創主義』のすすめ』『Back Up』三十一号 二〇一二年三月

マルクス・リュッターマン

●論文

“Schreib-Riten (shorei 書式) Untersuchungen zur Geschichte der japanischen Briefetikette, Teilband 1: Theorie und Überlieferung; Teilband 2: Rhetorik; Teilband 3: Nonverbalität und Intermedialität (Zuuni: Quellen, Studien und Materialien zur Kultur Japans/ herausgegeben von Klaus Kracht, Band 14; Teilbd. 14.1-14.3) Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2011 (Dec). (独語『日本書札の史的研究』三巻 第一巻「理論と伝播」、第二巻「修辭」、第三巻「非言語的・間メディア的記号性」二〇一二年二月

森 洋久

●その他の執筆活動

「森幸安の世界―地図というリフレクション」『月間京都』二〇一二年三月号(七二八号) 白川書院

劉 建輝

●著書

『国際シンポジウム第二六集 東アジアにおける近代諸概念の成立』(鈴木貞美と共編) 国際日本文化研究センター 二〇一二年三月

●論文

「上海の衝撃―幕末維新期における漢訳洋書の伝来とその意味」黄自進編『日本の伝統と現代』中央研究院人社中心亜太区域研究専題中心 二〇一二年二月

「欲望都市・上海の誕生とその表象」白幡洋三郎・錦仁・原田信男編著『都市歴史博覧―都市文化のなりたち・しくみ・たのしみ』笠間書院

二〇二二年一月二月

「侮蔑、趣味、そして憧憬から脅威へ——近代日本知識人の中国表象」『日本批評』編集委員会編『日本批評』第六号 ソウル大学日本研究所  
二〇二二年二月

「水と女の戯れ——谷崎潤一郎の中国江南」山田奨治・郭南燕編『江南文化と日本——資料・人的交流の再発掘』国際日本文化研究センター  
二〇二二年三月

●その他の執筆活動

「アジアの故郷——京都」『月刊京都 外国人から見たKOTO』京都』七二七号 白川書院 二〇二二年二月

「資本と革命がハーモニーする都市——万博と万博後の上海レポート」『日文研』四八号 国際日本文化研究センター 二〇二二年三月